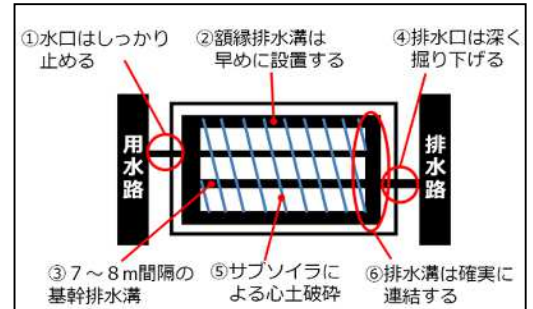


## 乾いた圃場で耕起・播種しましょう！

### 1 早めの排水対策

- ・ 水稻早生品種あと圃場を積極的に活用し、稲刈り後は速やかに額縁排水溝や基幹排水溝を設置し、透水性が悪い圃場では心土破碎（サブソイラ）を行う。
- ・ 水吐板や暗渠のキャップをはずしてあるか、確認する。
- ・ 排水口は深く掘り下げ、排水溝と確実に連結する。



### 2 土づくり

- ・ 土壌 pH6.0～6.5 を目標に耕起前に石灰質資材（土カパワー）を散布する。
- ・ 発酵ケイフンの施用により有機物や加里等の不足養分を補給する。

資材名	施用量の目安 (kg/10a)
土カパワー	100～150
発酵ケイフン	100～150

### 3 耕起・砕土、播種作業

- ・ 播種は適期の10月上旬を基本に、9月26日～10月中旬までに播種を終えられるように作業計画を立てる。
- ・ 乾いた圃場から順に、耕起・砕土、播種の一連の作業を一日で実施する。耕起は低速で丁寧に行い、砕土率を高める。
- ・ 越冬前の目標茎数（600～800本/m<sup>2</sup>）確保のために、播種時期に応じて播種量を調整する。
- ・ 播種深度が3cm程度になるよう播種機の調整を行う。
- ・ 畦幅は3～4mとし、溝深さ20cm以上の排水溝を設置（畦立て同時播種でできた溝）し、額縁排水溝に連結する。
- ・ 播種作業の後は、必ず基幹排水溝や額縁排水溝の手直しを行い、排水口との連結を再確認する。

#### <播種量>

播種時期	目標苗立数 (本/m <sup>2</sup> )	播種量 (kg/10a)
		ドリル播
9月26日～	140	6.0
10月上旬	150	6.5
10月中旬	200	8.5

#### <施肥量>

肥料名	施用量の目安 (kg/10a)
<肥効調節> エコ大麦44号	40～45

### 4 雑草対策

- ・ 除草剤は原則、播種直後に散布する。
- ・ 除草剤の効果を高めるため、砕土率を高める。

散布時期	カラスノエンドウが多い場合	除草剤名	適用雑草	10a当り散布量	散布方法
播種後～麦2葉期	※播種2週間後	リベレーターG	1年生雑草 (カラスノエンドウ、 カズノコグサ)	4～5kg	全面土壌散布
播種後～麦3葉期	※播種3週間後	リベレーターフロアブル		60～80mL (水100Lに希釈)	雑草茎葉散布または、 全面土壌散布
大麦節間伸長開始期まで (広葉雑草2～4葉期) 収穫45日前まで	—	エコパートフロアブル	1年生広葉雑草	50～100mL (水100Lに希釈)	雑草茎葉散布または、 全面土壌散布

※カラスノエンドウが多い場合は、「リベレーターG」または「リベレーターフロアブル」を散布時期の目安を参考に散布する。

### 8/20～10/20 秋の農作業安全運動実施中

【お問い合わせは JAいみず野 営農指導課 TEL52-6805  
高岡農林振興センター農業普及課射水班 TEL26-8478 まで】  
【JAいみず野ホームページ <http://www.ja-imizuno.or.jp/>】

高岡農林振興センター公式 LINE が開設されました。気象情報や補助事業の募集情報など配信されます。ぜひ登録ください。

